

目指す学校像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校
--------	-------------------------

重点目標	1 学ぶ喜びのある生き生きとした学校(「確かな学力」の育成、ICT教育の充実) 2 安全で落ち着きのある美しい学校(心のサポート体制整備・安全教育の充実、安全管理の徹底) 3 家庭や地域とこころが通い合う学校(コミュニティースクールの推進) 4 学校教育目標の実現に向け、総力を結集する教職員(わかる授業、学び続ける教師、研修の充実)
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価					
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年 2月13日					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果について、国語は、全国平均と同じであり、市の平均には1点及ばなかった。算数は、全国平均より4点・市平均より2点を上回っている。無回答率は、全国平均と比較すると、国語の無回答率が若干高く、算数の無回答率が低い。教科が好きかの肯定的回答は全国・市よりも高い傾向がある。 (課題) ○基礎学力の向上を図る必要がある。特に、「思考・判断・表現」の領域の育成が課題である。 ○国語の読解力(読むこと)に課題がある。	・「確かな学力」を育成するための授業改善(ICTの活用) ・「思考・判断・表現」の領域の育成	①各教科等のねらいの達成にどのようにタブレットの機能が活用できるか吟味し、オクリンクやムーブノートを積極的に活用する。 ②ICT教育に関する研修を実施する。	①積極的にICTを活用しているか、よい授業アンケート「ICTなどを活用して教えている」項目で肯定的な評価80パーセント以上になったか。 ②ICT教育に関する研修を2回以上実施したか。	①よい授業アンケート「ICTなどを活用して教えている」項目で肯定的な評価を全クラスが達成できた。 ②ICT教育に関する研修は、1月段階で6回実施し、達成できた。	A	各教科等のねらいの達成にどのようにICTを活用できるか吟味し、積極的に活用することができていた。今後、各教職員一人ひとりの授業力やICT活用能力の向上ができるように、研修機会を増やしてさらなる充実をさせていく。	・確かな学力を育成継続のため児童に向き合い先生の力を発揮している。 ・学校全体で、ICT活用を進めており、情報リテラシーが進んでいる。しかし、児童用PCが修理等のため一人一台が確保できていない状況について確保できるよう、学校運営協議会として、教育委員会に要望したい。 ・読書教育の更なる充実を図り、読解力の向上のため、読書の機会確保、話す書く活動を充実させる必要がある。また、ディベート等の活動も積極的に取り組んでほしい。	
2	(現状) ○学校評価「学校は保護者からの相談に対し、適切に対応している」の肯定的回答は、95%である。児童の学校評価項目「困ったときは先生や友達に相談をしている」の肯定的回答は、81%である。 (課題) ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○専門家スタッフ(SC、SSWなど)の限られた勤務日の中で、連携強化を図るための日程調整が必要である。	・児童一人ひとりを大切にしたい心のサポート体制の構築	①児童理解研修を実施し、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにする。 ②対応の難しい児童については、積極的にケース会議を実施し、組織的な対応をする。 ③議題を明確にした生徒指導委員会や教育相談委員会を実施する。 ④管理職と専門家スタッフ(SC、SSWなど)との打ち合わせを行い連携強化する。 ⑤「心と生活のアンケート」の確実な実施と迅速な対応の徹底。	①児童理解研修を実施し、共通理解を図ることができたか。 ②対応の難しい児童に対して、ケース会議を開催できたか。 ③生徒指導委員会や教育相談委員会の議題を明確にして資料を作成していたか。 ④管理職と専門家スタッフ(SC、SSWなど)との打ち合わせを毎回実施したか。 ⑤「心と生活のアンケート」後に実施された面談結果の迅速な管理職への報告が行われたか。	①児童理解研修は、4/11(保健)、6/16(教育相談)に行った。共通理解や共通行動がとれるように研修を実施した。 ②組織的な対応を行うために、必要に応じてケース会議を開催した。1月末段階で3回実施した。話し合ったことは全体に共有した。 ③生徒指導委員会、教育相談委員会では、議題を明確にして事前に資料入力、事前資料を配付し、効率的に実施した ④管理職とSCやSSWとの報告会を毎回実施して、情報共有を密に行った。 ⑤「心と生活のアンケート」後実施した面談結果の迅速な管理職への報告が実施できた。	A	児童との日々のかかわりや面談を通して、担任と児童との間には、本人の悩みや課題を確認・共有することができている。しかし、児童本人の課題意識を高めるところまではなかなか難しい状況なので、発達段階に応じて支援していく。生徒指導委員会、教育相談委員会、ケース会議を通して、担任の実が指導の中心となるのではなく組織力で対応していけるように報告・連絡・相談・見届けを確実に実施していく。		・いじめの早期発見に尽力は素晴らしい。心と生活のアンケート実施と分析をもとに未然防止に努めていく必要がある。 ・きめ細かく対応してもらっている。教員の業務負担によるメンタルを心配している。スクールカウンセラー等積極的に活用してほしい。 ・児童同士が教え合い、中学との連携、異学年との交流活動を積極的に今後も実施してほしい。
3	(現状) ○本年度、学校運営協議会がスタートをした。昨年度は、準備期間として、熟議の体験や学校経営方針の承認などを行った。 ○本校学校運営協議会を立ち上げ、地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか熟議を行っていく予定である。 (課題) ○昨年度は、コロナ禍のため、行事や授業参観ができない中で協議を行った。感染対策を行って、子どもたちの様子を見ていただく時間を実施していく必要がある。	・学校運営協議会を基盤として家庭や地域との連携強化 ・開かれた学校に向け、積極的な情報発信	①学校運営協議会の3回開催する。 ②学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか熟議を実施する。 ③学校運営協議会において、めざす学校像「あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校」の具現化を図る。	①学校運営協議会を3回開催したか ②熟議で決定したことを実施することができたか。 ③学校評価「経営方針・重点目標」について肯定的回答が90%以上となったか。	①②学校運営協議会を3回開催した。学校の現状の問題点や困っていることを相談し、学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのかを話し合うことができた。地域の方々、それを解決するためにできることを動いていただいた。 ③学校評価「経営方針・重点目標」について肯定的回答がすべての項目で90%以上となった。	B	学校運営協議会を通して、学校と地域や保護者と課題を共有し、共に一緒に考え、情報を共有することができた。 課題に対して、地域でもすぐに対応できないか検討していただける土壌があり、心強く連携をすることができた。具体的な方策などを検討していきたい。		・コロナ終息に時間がかかるが、学校と保護者、地域とのかかわりを進めるべきである。 ・児童のあいさつは保護者がまず進んで挨拶することが必要。地域の方があいさつしても知らない人にはしないこともある。 ・学校として地域に何をしてほしいか、さらに具体的に示してほしい。もっと学校と関わる必要性があるが、共働きの増える中、PTAの活動内容、時間を工夫する必要がある。 ・西側校舎には、ベランダがなく、窓清掃ができないので予算化を要望したい。
4	(現状) ○一人1台端末を授業の中で、効果的に活用するために研修をすすめてきた。 ○来年度の「教科担任制」全校導入に向けて準備を進めていく1年となる。 (課題) ○先進実践校の教科担任制を参考にして、本校に合う教科担任制の在り方を、R5年度完全実施に向け体制を整える必要がある。	・教科担任制によるメリット、デメリットを十分吟味し、次年度計画の完成	①校長会、教頭会、教務主任会などで情報を集め、本校に合う教科担任制の提案資料を完成させる。 ②今年度中に、教科担任制の詳細を提案し、スムーズに導入できるようにする。	①2学期までに本校の教科担任制の提案資料を作成することができたか。 ②1月中に、教科担任制についての提案を行い、決定できたか。	①幅広く情報を集め、本校に合った教科担任制を2学期に提案した。校内研修も行き、教職員で検討した。1月には仮の時間割も提案され、方向性が定まった。 ②2月上旬、会議にて決定。	B	教科担任制の導入に向けて、全教職員を巻き込んで、本校に合ったものを検討してきた。来年度、実際に運営をしてみても、問題点や改善すべき点を明らかにして、修正をしていく。ICTの研修については、さらに充実をさせていく。		・教科担任制については、中学校への準備段階として必要。児童一人ひとりの支援につながり、多くの目で児童を見ることができ、他のクラスも見ることができ積極的に教科担任制を進めてほしい。 ・児童の成長と教員の専門性を考慮して教科担任制を導入した方がよい。 ・担任の持ち時数が減ることで児童の様子や学力の把握がしにくくならないように工夫をして実施して欲しい。

